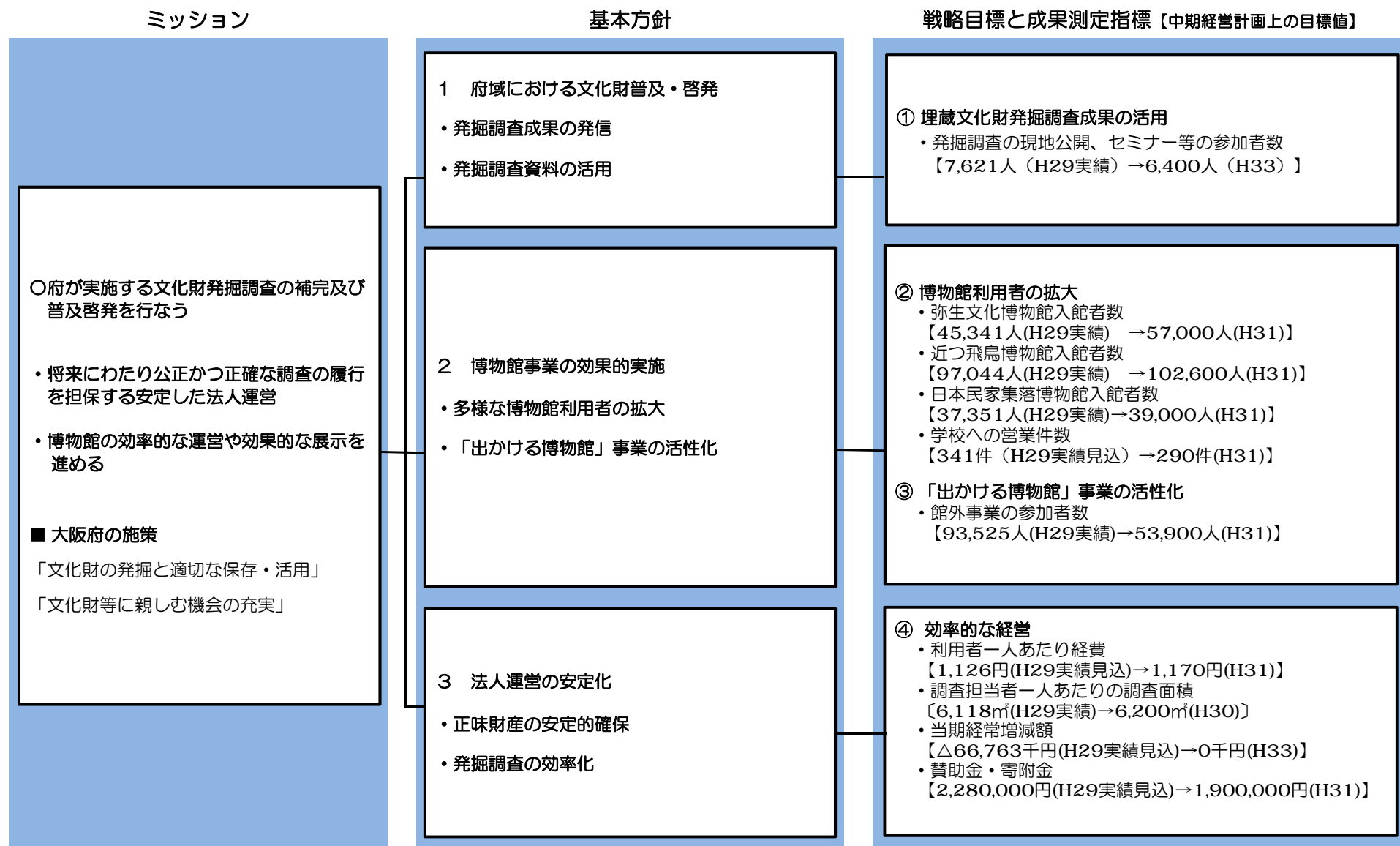


法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
作成（所管課）	教育庁文化財保護課

○ 経営目標設定の考え方



○ H29年度の経営目標達成状況及びH30年度目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)											
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト(H29)	H28実績	H29目標	H30目標	ウエイト(H30)	中期経営計画(H29~H33)		H30目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						実績(見込)			H30目標	最終年度目標	
① 埋蔵文化財発掘調査成果の活用	発掘調査の現地公開・セミナー等の参加者数		人	13	5,990	6,000 7,621	10,000	40	-	6,400	中期経営計画では、6,400人を最終年度目標として策定しているが、当該事項を最重点目標としたこと、能動的努力により参加者数増加をめざせることもあり、上方修正
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										具体的活動事項	
最重点とする理由、経営上の位置付け	<p>当法人では平成29年度に策定した中期経営計画のビジョンとして、以下の3本柱を設定している。</p> <p>①【文化財で心を豊かに】⇒「温故知新」で文化力向上 ②【文化財を身近に】⇒歴史教育への寄与 ③【新たなステージへ】⇒新たな成長への挑戦</p> <p>具体的には、①「文化財を通して、先人の知恵と工夫を学び、これを府民に伝える」、②「博物館管理運営事業や文化財公開活用事業を通して、明日を担う子ども達に歴史を学ぶことの大切さを具体的に伝える」、③「公共事業が減少するなか、市町村・民間の埋蔵文化財調査事業の受託のほか、新たな博物館の指定管理の受託」を目指している。</p> <p>国民共有の財産である埋蔵文化財調査の第一線に立つ法人として、様々な世代の人々に広く文化財を調査する意味と意義を伝えることが重要であると考えている。結果的に、このことが、当法人の社会的な存在意義をも高めるものと考えている。</p>										
最重点目標達成のための組織の課題、改善点	<p>課題: 発掘調査現場の公開に関しては、重要な調査成果が得られた際には、事業者の協力のもと、可能な限り現地を公開する方針をとっている。また、近隣の小学校等の見学の機会を設けるようにしている。しかし、最近では、大規模な公共事業が減少し、短期間の小規模な調査地が増加し、現地を公開するための時間的な余裕がとれないことも多くなってきている。</p> <p>改善点: 現地での公開が困難な場合など、博物館におけるスポット展示などを通して、府民に調査成果を還元する。また、幅広い世代に訴求できるように、様々なツールを活用するほか、ホームページなど、インターネットによる情報発信を充実させるために、その内容と方法を多角的かつ効果的に進める。</p>										
活動方針	<p>・民間企業との連携をさらに強固なものとし、当センターがもつ企画力と専門分野をもつ豊富な人材と民間企業がもつ広報力とネットワークを相互に活用し、Win-Winの関係で事業を進める。</p> <p>・大阪府の各地に展開する博物館での展示事業によって地域とのつながりも大切にしながら、一般府民が多く集まる市内中心部においても積極的に講演会を行い、当センターならびに博物館の知名度もアップするよう事業を推進する。</p>										
<p>発掘調査現場の現地公開の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地説明会の開催 ・地元学校の見学受け入れ ・地元自治会を対象とし現地公開の開催 <p>発掘調査資料の活用・公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府立博物館(指定管理)における調査成果の速報展示および講演会の実施 ・泉佐野市立歴史館いずみさの(指定管理)における展示企画への積極的活用 <p>学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発掘現場への近隣小学校の見学誘致 ・博物館事業として出前授業の充実 ・高校生の考古学体験の受け入れ ・大学との連携による考古学関連の講義 <p>民間企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近鉄文化サロンと連携し、連続講演会を実施 ・ハルカス(近鉄百貨店本店)の「まなぼスタジオ」における子ども向けワークショップの実施 ・民間旅行会社との連携による文化財見学ツアーの企画 <p>多様なニーズに合わせた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページなどによる情報発信機能の充実 ・SNSを活用した情報発信 ・報道提供によるマスメディアによる情報発信 											

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト(H29)	H28実績	H29目標	H30目標	ウエイト(H30)	中期経営計画(H29~H33)		H30目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績(見込)			H30目標	最終年度目標		
② 博物館利用者の拡大	博物館入館者数											
	学校への営業件数(プロセス)		件	3	372	270 (341)	↓ 280	3	280	290 *	中期経営計画による	・学校訪問による継続的な誘致活動の実施。 ・校長会などでの博物館体験プログラム等の説明による利用促進。
	i 弥生文化博物館		人	8	55,041	i 55,000 × i 45,341	50,000	8	56,000	57,000 *	小学校団体の減少など、弥生博評価委員会における外的要因の指摘を踏まえて設定	i ・館キャラとして定着したマスコットキャラクターを使った教材や情報発信によるリピーター増加方策の推進。 ・「はくふだ」(博物館カード)による、博物館ネットワークを構築し、子どもの継続的な来館を促す学習メニューのより一層の充実。 ・専門性を活かし、他館・他施設と連携した各種事業の推進。
	ii 近つ飛鳥博物館			8	90,025	ii 94,200 ii 97,044	98,400	8	98,400	102,600 *	中期経営計画による	ii ・百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に協力し、博物館利用をふくめた相乗効果を発揮。 ・大阪府が計画しているリニューアルに協力し、より良い博物館施設の創出。
iii 日本民家集落博物館		8		35,816	iii 36,600 iii 37,351	37,800	8	37,800	39,000 *	中期経営計画による	iii ・団体旅行にかわって増加している外国人の個人観光客のロコミによる利用拡大を目指して、好感度アップのためのスタッフ教育。	
③ 「出かける博物館」事業の活性化	館外事業の参加者数		人	5	55,253	53,100 93,525	↓ 53,500	5	53,500	53,900 *	中期経営計画による	・他の博物館・資料館との連携事業の強化。 ・学校や民間企業とも連携し、出前事業や出張講座、展示事業などを積極的に展開。

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④	効率的な経営 (博物館事業の効果的実施)	利用者一人あたり経費 (事業費/利用者数)	円	10	1,233	1,210 (1,126)	↓ 1,190	4	1,190	1,170 *	中期経営計画による	・リピーターの確保に加えて、若年層や女性、外国人などの新たな来館者層の開拓を行う。
	(効率的経営の推進)	埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積 (総調査面積/現地調査従事人数)	m ²	10	5,612	3,850 6,118	6,200	10	—	—	H29年度実績を踏まえて設定	・市町村や民間が主導する区画整理などの情報を収集し、当センターが得意とする大規模調査を受託。
	(安定的財基盤の確立)	当期経常増減額	千円	30	△ 36,821	△ 99,702 (△ 66,763)	0	10	0	0	H30年度事業量を勘案して設定	・埋蔵文化財調査事業の積極的受託に加えて、柔軟な組織体制を構築。
	(民家集落博物館展示民家保存修理のための自主財源の確保)	賛助金・寄附金	円	5	1,855,000	1,900,000 (2,280,000)	↓ 1,900,000	4	1,900,000	1,900,000 *	中期経営計画による	・企業等からの賛助金が中止・減額されるなかにおいて、個人寄附の拡大により、自主財源確保をめざす。

【凡例】

- ・☆はH30からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・()は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値
- ・*は指定管理期間の最終年度である平成31年度の目標値を記載

法人名

公益財団法人 大阪府文化財センター

CS調査の実施概要

○ 平成29年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
① 弥生文化博物館利用者 CS満足度調査 ② 近つ飛鳥博物館利用者 CS満足度調査 ③ 日本民家集落博物館利用者 CS満足度調査	① 弥生文化博物館利用者への アンケート ② 近つ飛鳥博物館利用者への アンケート ③ 日本民家集落博物館利用者への アンケート	① 弥生文化博物館特別展・企画展等期間中の 来館者 ② 近つ飛鳥博物館特別展・企画展等期間中の 来館者 ③ 日本民家集落博物館のイベント参加者	① 約400名 ② 約530名 ③ 約130名	① 特別展・企画展開催期間中 (年4回) ② 特別展・企画展開催期間中 (年4回) ③ イベント開催時(年1回)

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組	平成30年度にめざす状態
① 沖縄及び海をテーマにした特別展の内容に対する高評価。 施設の管理状態、スタッフの対応について高評価。 ② 土器復元パズルなど体験アイテムが高評価評価。 常設展示のリニューアルを求める声が多かった。 ③ 展示民家のみならず、梅や桜など、四季折々の花々を含む空間 全体に対して高評価。 博物館全体の雰囲気に対して、外国人来館者の口コミが高評価。	① ニーズに見合うような、特別展に関連したワークショップ・ 講演会等を開催し、幅広い年齢層への普及を試みた。 ② 館外イベントなどでより多くの方に体験していただける機 会を増やした。 スポット展示を開催し、最新の調査研究成果を紹介した。 ③ 多言語対応のパンフレットの整備と外国語を話せるスタッ フの採用。	① 広く府民に興味を持ってもらえるテーマによる特別展・企画展 の開催。 ② リニューアルに向けての館内準備を進める。 ③ 外国人来館者へのホスピタリティ向上、口コミによるリピ ーターおよびノンカスタマーの確保。

○ 平成30年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
① 弥生文化博物館利用者 CS満足度調査 ② 近つ飛鳥博物館利用者 CS満足度調査 ③ 日本民家集落博物館利用者 CS満足度調査 ④ 発掘調査遺跡現地公開参加者 CS満足度調査	① 弥生文化博物館利用者への アンケート ② 近つ飛鳥博物館利用者への アンケート ③ 日本民家集落博物館利用者への アンケート ④ 発掘調査遺跡現地公開参加者への アンケート	① 弥生博特別展・企画展等期間中の来館者 ② 近つ博特別展・企画展等期間中の来館者 ③ 民集博イベント参加者 ④ 現地説明会、現地公開開催時の来場者	① 約600名 ② 約600名 ③ 約200名 ④ 約200名	① 特別展・企画展開催期間中 (年4回)および常設展期間中 ② 特別展・企画展開催期間中 (年4回)および常設展期間中 ③ 通年(イベント開催時随時) ④ 現地公開開催時(年4回)

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

29年度の 成果測定指標	単位	29年度の目標値	29年度の実績値 (見込)
弥生文化博物館 入館者数	人	55,000	45,341

未達成の要因と分析	小学校団体の減少に加え、台風上陸の天候不良による史跡公園行事の中止等による影響を受けたほか、夏季特別展以外はやや専門的なテーマの展示となり、新規の来館者を迎え込むまでには至らなかった。
------------------	--

今後の改善方策	従前から好評を博している外国の歴史展やトンボ玉展など、日本の考古学や歴史にこだわることなく、幅広い展示企画を展開することにより、女性や幅広い年代層に訴求する。
----------------	---

■ H29年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
学校への営業件数	件	(341)	280

マイナス（現状維持）目標の考え方	校長会等にも積極的に足を運び、博物館および学習プログラムの紹介などを行なうとともに、担当教諭に向けて、より時間をかけて丁寧な説明を行うこととし、中期経営計画の目標値とした。
------------------	--

〔2〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
館外事業の参加者数	人	93,525	53,500

マイナス（現状維持）目標の考え方	平成29年度の実績値は近つ飛鳥博物館が実施した国立民族学博物館での連携展示により、大きく数字を伸ばしている。このことは例年に比較するとイレギュラーな事象であるが、今後も他地域の博物館等との連携企画を検討するとともに、学校の出前授業なども継続して地道に推進することとし、中期経営計画の目標値とした。
------------------	--

■ H29年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
利用者一人あたり経費	円	(1,126)	1,190

マイナス（現状維持）目標の考え方

平成29年度は近つ飛鳥博物館が実施した国立民族学博物館での館外事業参加者により目標をクリアしたが、このことは例年に比較するとイレギュラーな事象である。今後も他館との連携や充実した展示企画を推進し、博物館利用者の増加を目指し、一人あたりの経費を抑制することとし、中期経営計画の目標値とした。

〔4〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
賛助金・寄附金	円	(2,280,000)	1,900,000

マイナス（現状維持）目標の考え方

企業からの賛助金が中止・減額されるなかにあつて、個人寄付の拡大を目指すこととし、中期経営計画の目標値とした。